

側枝静脈瘤に対するレーザー焼灼術の適正実施基準

患者条件(以下の条件をすべて満たす患者)

- 1) 静脈うっ滞症状を認める一次性下肢静脈瘤^{1,2)}(血管径 20 mm 以下の大伏在静脈瘤又は小伏在静脈瘤)で、伏在静脈本幹と同時に側枝静脈瘤の治療を必要とする症例(付記参照)。
- 2) TLA 麻酔浸潤によって皮膚との距離が十分とれる側枝静脈瘤。
- 3) 抗血小板薬・抗凝固剤使用など出血リスク高い患者、皮膚病変で外科的切除が困難な患者がより良い適応となる

付記: 副伏在静脈は大伏在静脈に含む

施設条件(以下の条件をすべて満たす施設)

- 1) 下肢静脈瘤に対する血管内治療の実施基準による実施施設

施行医師条件(以下の条件をすべて満たす医師)

- 1) 下肢静脈瘤に対する血管内治療の実施基準による実施医、又は指導医

今後のエビデンスの集積、デバイス、薬剤の進歩などによって診療指針が変更となる可能性がある。
この適正実施基準は 2 年以内に見直すこととする。

令和 6 年 9 月 30 日

下肢静脈瘤血管内治療実施管理委員会

参考文献

- 1) 広川雅之, 佐戸川 弘之, 八杉 巧, 他: 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術のガイドライン 2019. 静脈学 2019;30(Suppl): i-81
- 2) 孟 真、広川雅之、佐戸川弘之他: 「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術のガイドライン 2019」不適切治療症例に関する追補. 静脈学 2020;31;39-43